

■本因坊秀策 天才囲碁棋士。近代碁の基礎となる布石の創案など、江戸囲碁を集大成。13年間無敗のまま、コレラで早世。

ほんいんぼうしゅうさく

碁師 本因坊 追放 1829 =

備後国の因島で、雑貨商桑原輪三の次男に生まれる。幼名は虎次郎。

母から碁を習って、碁石を子守り代わりに育ち、

高島砲術 1834 = 5歳 : 尾道の豪商橋本吉兵衛から手ほどきを受け、

1836 = 7歳 : 初段の吉兵衛と互先で打てるほどになって神童の評判が立ち、安芸藩三原城主浅野忠敬に召出され、父の実家安田姓を名乗るとともに、住職や儒者から漢学など学ぶうち、尾道に立寄った伊藤松和に認められ、

大塩平八郎乱 1837 = 8歳 :

適塾オープン 1838 = 9歳 :

勸進帳初演 1840 = 11歳 :

*初段格の免状を持って帰藩、五人扶持を与えられ、

天保改革弾圧 1842 = 13歳 :

*再び、江戸修行に出、途次、大坂で玄庵因碩の筆頭弟子中川順節との二子局に全勝、“安芸小僧”の名が天下に轟き、仁孝天皇の耳に入るほどで、江戸到着とともに秀策の名と二段格免状を与えられ、兄弟子道和らの熱心な指導も受けて、

順天堂始 1843 = 14歳 :

以後、一年毎に昇段して行き、

天保改革終 1844 = 15歳 :

帰藩し、

阿部正弘首座 1845 = 16歳 :

増禄、

孝明天皇 1846 = 17歳 :

*三度目の江戸修行に出、途次、中川順節と対局し全勝の後、玄庵因碩との対局する栄誉を得て名局“耳赤の一局”を含む勝利で天才ぶりを証明。到着するや、丈策・丈和から秀和の後継者を囑望されるも、固辞。坊家では安芸藩主浅野斎鼎に働きかけて、三原侯の了解を得るとともに、秀和との集中的対局を設定、

1847 = 18歳 :

丈策・丈和が相次いで死去したため中断するが、

1848 = 19歳 :

秀和への尊敬の念も高まり、正式に跡目となり、

北斎没 1849 = 20歳 :

御城碁に初出仕後も、なお対局を続けて“珠玉の四局”を残す。

ペリー来航 1853 = 24歳 :

太田雄策との三十番碁を始める。

松下村塾 1856 = 27歳 :

桜田門外変 1860 = 32歳 :

遣欧使節 1861 = 33歳 :

生麦事件 1862 = 34歳 :

この年まで御城碁に19連勝無敗の偉業を達成。弟子秀甫との十番碁では勝負を超えた思い切った趣向。

*順風満帆の棋士人生の最中、江戸でコレラが大流行し、坊家にも多数の患者が出ると、秀和が止めるのも聞かず看病に当り、自らも感染して、没した。